

第4章 高瀬川流域の土砂災害

高瀬川流域の主な土砂災害年表を表 4.1 に、災害の発生位置図を図 4.1 に示します。

また、高瀬川流域の主な災害事例の詳細については、4.1 項～4.3 項に各論を示しています。

表 4.1 (1/2) 土砂災害年表

■ 本冊子で取り上げた事例

■ 天然ダムを伴った事例

位置	和暦・西暦	発生地点 「名称・通称」	誘因	災害概要	出典
①	大同元年 (806)	大町市 「鶴ヶ岡の崩壊」	地震	鹿島の西にある鶴ヶ岡の山が崩れ、冷沢を堰き止め、湖水となる。決壊を恐れた大沢寺付近の人々は地震の神様・鹿島様を祭った。	※1
②	永享十二年 (1440)	大町市平 「矢澤山の崩壊と天然ダム災害」	降雨	鹿島の西南、矢澤山が崩壊して鹿島川を堰き止めた。3 昼夜後、決壊して仁科郷に流出し、人畜死傷。嘉吉二年(1442)、水源地に社を建立し鹿島大明神を勧請(かんじょう)した。	※2
③	天文三年 (1534)	大町市 「鶴ヶ岳の崩壊」	地震	鶴ヶ岳の南の一峰が崩壊して駒澤川の上流を堰き止め、数日後に決壊。野口村、借馬村、大町村に大きな被害。この後、地震鎮圧の鹿島明神を常陸国から勧請して祠を建て、鶴ヶ岳を鹿島大岳、駒澤川を鹿島川と改めた。	※3
④	寛永十五年 (1638)	大町市 「猫鼻の湛水」	融雪	雪解け水が溜まって鹿島川の猫鼻付近一帯は大きな池になり、下流では大水害の心配をした。ある山伏が祈ったところ、少しずつ流れ出したので人々も安心した。寛永十八年(1641)に「猫塚」が建立された。	※4
⑤	寛文年間の頃 (1661 ～1673) 頃	大町市 「丹生子集落の水害」	降雨	寛文年間(1661～1673)の頃、高瀬川が大町市社地区で左岸側へ大きく切れ込み、丹生子(にゅうのみ)集落の大半が流出し、住民は八坂地区へ移住した。これに伴い、江戸時代には丹生子集落の年貢を八坂分から納めることとされた。	※5
⑥	元禄十五年 八月三日 (1702 年 8 月 25 日)	安曇野市穂高 「穂高川の水害」	降雨	高瀬川が出水し、青木花見村(現穂高町)の加衛門山から切れ込み狐島村(現穂高町)の西部を押し流して穂高川に入り、ここを 10 年間流れていたと言われ、狐島はこのとき 37 石余の田畑を流失した。このため青木花見村の一部の村民は貝梅村へ移住した。	※6
⑦	享保三年 (1718)	大町市 「猫ヶ鼻の氾濫」	降雨	この年から数年前、鹿島川が猫ヶ鼻地籍で氾濫。8km 以上離れた大町の陣屋も浸水した。	※5
⑧	寛政元年 (1789)	大町市 「源汲の水害」	降雨	鹿島川の猫鼻下流で氾濫し、右岸の駒沢村下行(源汲)の約半分の耕地と家屋 11 戸が流出した。	※5
⑨	文化十三年 八月四日 (1816 年 8 月 26 日)	大町市 「乳川の氾濫」	降雨	高瀬川支流の乳川が氾濫し、高瀬川右岸の現大町市常盤地区の西山村の 3 分の 1 にあたる耕地が流出し、ほとんどの家屋が床上まで浸水した。	※5
⑩	弘化四年 三月二十四日 (1847 年 5 月 8 日)	大町市・他 「善光寺地震」	地震	善光寺地震(M7.4)。霊松寺倒壊炎上。倒壊したり、火災により焼失せる家屋多数。道路・河川の被害大。	※7
⑪	嘉永七年 安政元年 十一月四日 (1854 年 12 月 23 日)	大町市・他 「安政東海地震」	地震	安政東海地震(M8.4)。松本地方強震。	※7
⑫	安政五年 三月十日 (1858 年 4 月 23 日)	大町市・他 「大町組地震」	地震	大町組地震(M5.7)。青木湖の湖尻は長 80 間(約 144m)にわたって山が崩れ込み、全壊 24 軒。道は百数十間にわたって亀裂を生じた。大町組(池田町、松川村を除いた北安曇郡と大町市)全体の被害は全壊 71 戸、半壊 266 戸、山崩れ 160 箇所、死者なし。	※7

表 4.1 (2/2) 土砂災害年表

本冊子で取り上げた事例

天然ダムを伴った事例

位置	和暦・西暦	発生地点 「名称・通称」	誘因	災害概要	出典
⑬	明治 18 年 (1885) 7 月 1 日	大町市平 「明治 18 年の 水害」	降雨	6 月末からの降雨により高瀬川水系氾濫。高瀬川では野口村大蔵宮の用水堰揚げ口を破壊、野口村土場や社村戸崎の堤防流失。鹿島川では鹿島集落付近の堤防が流失し、畑に土砂流入。農具川は木崎湖の水位が 6 尺（約 1.8m）上昇したために激流と化し橋梁流失。	※3
⑭	明治 43 年 (1910) 8 月 9 日	安曇野市 「明治 43 年の 水害」	降雨	高瀬川、穂高川より侵水し、堤防欠壊 5 箇所 200 間、破損 6 箇所 300 間、道路流失 3 箇所 900 間、破損 4 箇所 1,200 間、橋梁流失 15 箇所・破損 5 箇所、土地流失 13 町歩、家屋破壊 65 戸、浸水家屋 108 戸、土地 95 町歩、立毛作損害 5,050 円に及び両陛下より御救恤金が御下賜された。	※6
⑮	大正 7 年 (1918) 11 月 11 日	大町市 「大町地震」	地震	大町地震。午前 3 時頃に 1 回目の地震（M6.1）、午後 4 時頃に 2 回目の地震（M6.5）。被害はおもに大町、常盤村、社村、平村、八坂村、美麻村に及び、家屋の全潰 6、半潰 305、破損 2,547、死者なし。 山崩れは西側の高瀬川流域の山地で多発した。	※7
⑯	昭和 27 年 (1952) 7 月 28 日	大町市・他 「昭和 27 年の 水害」	降雨	梅雨前線による大雨で、鹿島川、高瀬川、農具川が洪水となり各地で被害があり水防団が出動し、国鉄大糸線では白馬以北で不通となり復旧まで 3 箇月を要した。	※6
⑰	昭和 28 年 (1953) 9 月 24 日	松川村・他 「昭和 28 年の 水害」	降雨	台風 13 号による降雨で高瀬川は増水、各所で氾濫し、南安曇郡北穂高村、有明村で欠壊氾濫により浸水倒壊家屋 70 戸、270 町歩の冠水の被害があり、 北安曇郡松川村、常盤村には災害救助法 を発動し、26 日には松本地区保安隊 320 人が出動した。両村の被害は死者 5 人、行方不明 3 人、重軽傷者 15 人、家屋全壊流失 31 世帯などの被害が発生した。	※6
⑱	昭和 32 年 (1957) 7 月 7～8 日	大町市 「鹿島川の氾濫」	降雨	被害は北安曇地方に多く、高瀬川、鹿島川、姫川などが増水し、 鹿島川の氾濫で犬の窪、源汲で 85m、鹿島で 140m の堤防が欠壊 し、その他住家 1 戸破損、床上浸水 1 戸、非住家流失 5 戸、山林流失 1 町歩の被害を受けた。	※6
⑲	昭和 34 年 (1959) 9 月 25～26 日	大町市・他 「伊勢湾台風」	降雨	台風 15 号（伊勢湾台風） が高瀬川流域の西側を通過したため、犀川流域に洪水をもたらし、高瀬川、鹿島川、農具川等が増水し全域的に大きな被害を受けた。高瀬川で 9 箇所 1,267m、鹿島川で 9 箇所 1,062m が堤防欠壊するなどの被害が発生した。	※6
⑳	昭和 44 年 (1969) 8 月 11 日	大町市・他 「高瀬川災害」	降雨	8 月 7～12 日にかけて停滞した梅雨前線は大町市西部の山岳地帯に多量の降雨をもたらし、南沢岳で 8 月 11 の降り始めからの雨量 402mm を記録した。このため南沢岳東麓の濁沢が崩壊し、崩落土砂が高瀬川を一時的に堰き止めた後、決壊して一気に土石流となり約 5km 下流の葛温泉（旅館 3 軒）を流失・埋没させた。また、下流部において死亡・行方不明 3 人、家屋田畑にも大きな被害が発生させた。大町市内各地に大水害を引き起こし、松川村では堤防が決壊、家屋、水田も被害を受けた。集中豪雨のあった地域には登山者も多く、高瀬渓谷で孤立した 500 人は 3 日目になってヘリコプターで救出された。被害は、大町市、穂高町、松川村に集中し、災害救助法が適用された。	※6

※1 鹿島神社由緒

※2 信濃教育会北安曇部会（1979）：北安曇郡郷土誌稿第一輯，198p

※3 大町市史編纂委員会（1986b）：大町市史，第四巻，近代・現代，1315p

※4 猫塚現地案内板

※5 大町市史編纂委員会（1986a）：大町市史，第三巻，近世，855p

※6 大町ダム工事事務所（1985）：高瀬川の治水水利，49p

※7 大町市史編纂委員会（1984）：大町市史，第一巻，自然環境，1239p

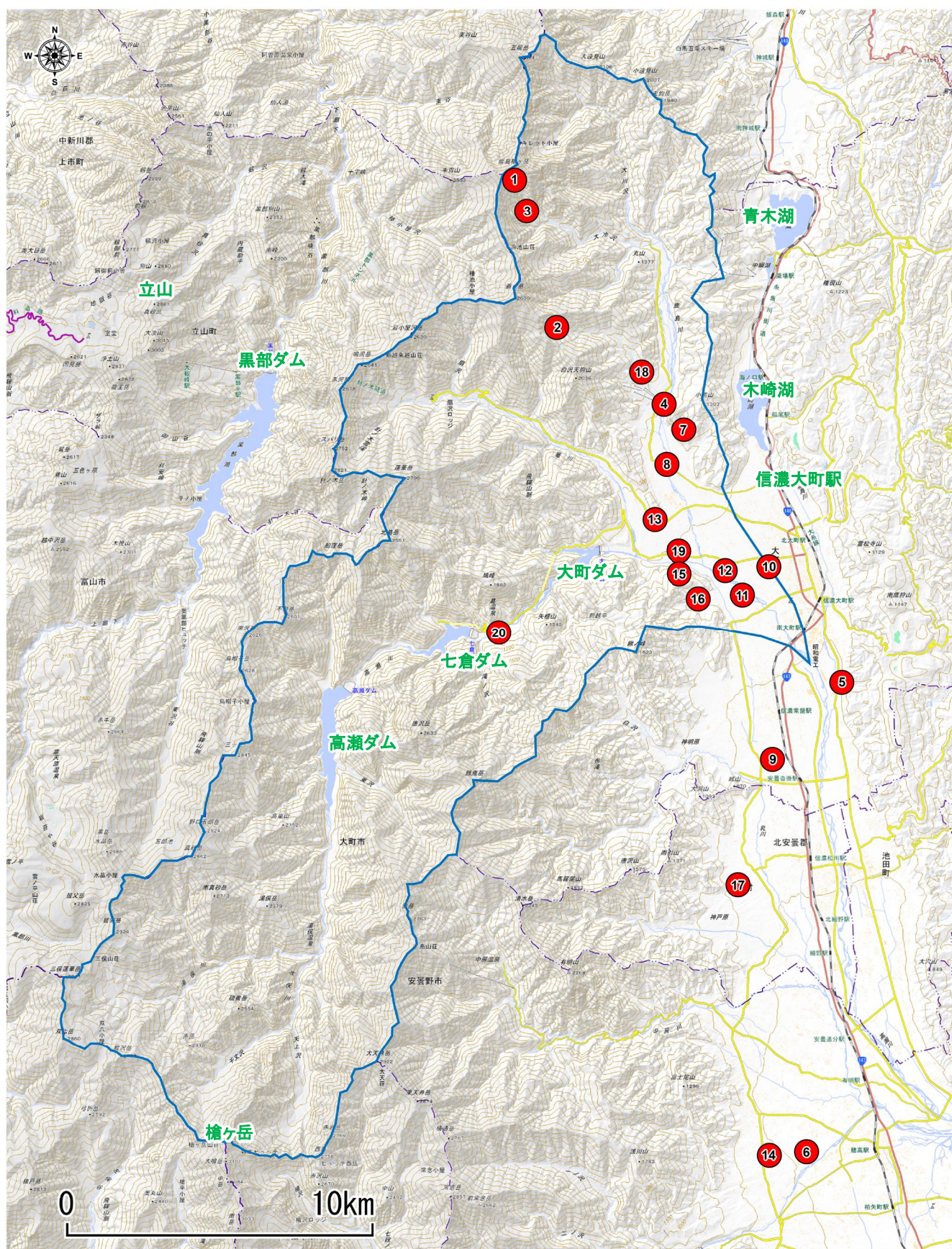


図 4.1 高瀬川流域の災害発生位置図（地理院地図「標準地図」に加筆）
※図中の番号①～⑰は、表 4.1 の位置番号と対応